

SHOW HEY シネマルーム

★★★

バーニング・ダウン 爆発都市 (拆弾專家 2 SHOCH WAVE 2)

2020年/香港・中国映画
配給: アルバトロス・フィルム/121分

2022 (令和4) 年2月12日鑑賞
2022 (令和4) 年4月19日鑑賞

オンライン試写
シネ・リーフル梅田

Data

2022-17

監督・脚本: ハーマン・ヤウ

出演: アンディ・ラウ/ラウ・チン
ワン/ニー・ニー

👁️👁️ みどころ

タイトル通り、冒頭、香港国際空港が小型核爆弾で大爆発！その実行犯は？製作費の大半はその爆破費用に？もっとも、これは“最悪の想定”のようで、その阻止のためアンディ・ラウが大活躍！

任務遂行中に片足を失い、さらに記憶まで喪失してしまった元爆弾処理班のエースが、テロリストからの勧誘に悩みながらも大奮闘。その支えは恋人の愛だが、ここまでストレスの“潜入捜査”はヤバいのでは？

製作費44億円で230億円の興行収入なら、採算はOK。しかし、この出来では・・・？

— * — * — * — * — * — * — * — * — * — * — *

正如片名所示，在影片开始时，香港国际机场被一颗小型核弹炸毁！谁是肇事者？大部分的制作费都用在了那个爆破场景？然而，这似乎是一个“最坏的情况”，为了阻止这一切的刘德华开始大显身手！

执行任务时失去了一条腿、甚至丧失记忆的前拆弹小组王牌成员，挣扎在恐怖分子的招揽中，却仍付出了巨大的努力。

虽然女友的爱支持着他，但这么刀尖上悬崖边的卧底不是很危险吗？

制作成本44亿日元，票房收入230亿日元，这还挺合算，但这个表现.....？

— * — * — * — * — * — * — * — * — * — * — *

■□■ ジャッキー・チェンが元気ならアンディ・ラウも元気！ ■□■

香港が誇るアクション俳優ジャッキー・チェンは今なお元気だが、アンディ・ラウも負けず劣らず元気。今もアクション俳優として第一線で活躍中だ。それを自慢するかのよう
に、フォン（アンディ・ラウ）は冒頭の任務遂行中に片足を失っても、驚異的なリハビリで職場に復帰！そう願ったが、香港警察の上層部の判断は？

記憶喪失状態になりながら、フォンはなお第一線で爆弾処理の任務を遂行できるの？ ジャッキー・チェンも年相応に役柄を変えてきたが、それはアンディ・ラウも同じ。職場の戦友でもある恋人のパン・リン（ニー・ニー）は若く美しいからまっすぐに生きればよいだけだが、フォンはそうはいかないのでは・・・？

小さなパソコン上の画面でのオンライン試写で一度観た映画をあえて劇場で再度観るのは異例だが、本作については、4月19日に劇場で再鑑賞。その理由は第1に、製作費44億円の大部分を投入したであろう、冒頭とラストの大爆発シーンを大スクリーンで観たかったため。そして第2に、複雑すぎてイマイチわかりづらかったフォンの潜入捜査の実態と記憶喪失の程度を再確認したかったためだ。

■□■爆弾処理班の仕事は大変！左足を失っても！■□■

本作導入部では、フォンが相棒のドン・チェックマンと共に爆弾処理班のエースとして、危険を顧みることなく数々の現場に臨む情景が描かれる。爆弾処理班の仕事は神経をすり減らす大変な知的労働であると同時に、重い対爆スーツを着用して動き回る強靱な肉体と人並み外れた運動能力を必要とする肉体労働の両面を持っていることは、数々のシーンからしっかり伝わってくる。それだけに、やっと「処理できた！」と思った途端の事故によって、フォンが左足を失ったのは実に残念。

しかし、そんな周囲の心配をよそに、フォン自身は強靱な精神力によってそれを克服し、リハビリによって人並み以上の運動能力を備えて現場復帰を要請してくるから、すごい。肉体上の厳しい試験（基準）をすべてクリアしているのなら、上層部は彼の意思を尊重すればいいのに、「身障者を現場で使っている」との批判を恐れた上層部はフォンの気持ちを無視し、事務仕事に配置換えしたから、アレレ。さあ、そこから始まる「スパルタクスの反乱」ならぬ「フォンの反乱」は如何に？それは前代未聞のものになっていくから、それに注目！こりゃ面白い！

■□■二度目の大事故で記憶喪失に！復生会との接点は？■□■

近時北朝鮮が次々と実施しているミサイルや核の度重なる実験は不気味だが、超小型の核爆弾を香港のテロ組織「復生会」が入手すれば・・・？冒頭の香港国際空港の大爆発が現実ではなく“最悪の想定”だったのはラッキーだが、“ある任務”で今度は記憶喪失状態になってしまったフォンの頭の中は大変。

フォンが警察上層部に不満を持っていることに目を付けたのは、復生会のボスであるマ・サイクアン（ツェ・クアンホウ）。彼はフォンの同級生だったから、フォンの人となりは誰よりもよく知っていた。したがって、今や爆弾処理班のエースとしての顔と、テロ組織「復生会」の“プリザード”としての顔の2つを持つフォンを、うまくトレードできれば・・・。さあ、フォンはあくまで警察の立場で働くの？それとも、復生会の幹部としてトレードに？

そのカギを握るのは、同じ警官として働いていた恋人のパン・リンだが、上層部から第

一線の任務を外されたフォンを彼女はいかに見守るの？また、フォンのパディとして互いに絶大の信頼を寄せてきたドン・チェックマン（ラウ・チンワン）の動静は・・・？

■□■フォンは潜入捜査員？単なる記憶喪失？■□■

導入部で観た（一度目の）フォンの事故はわかりやすいが、本作中盤に登場するフォンの二度目の事故は、説明不足（？）もあって非常にわかりにくい。フォンが豪華ホテルのパーティー中にプールの中に飛び込んだために起きた大爆発事故は、フォンが警察を辞め、恋人のバン・リンとも別れた5年後のことだ。その間、フォンはどこで何をしていたの？

スクリーン上では、復生会のメンバーが自爆テロを行うシークエンスが登場していたから、二度目の事故はその延長？すると、警察を辞めたフォンは復生会のメンバーとして、あの爆発事故に関与していたの？それは、二度目の事故でも生き残ったフォンを尋問すればわかること。しかも、レイ・ユースンがその尋問に当たったのだから、真相解明は容易なはずだ。ところが、「俺は覚えていない！」というフォンの言葉は嘘ではなく、彼の記憶喪失は本物だったからコトはややこしいことに。すると、誰もこの5年間の彼の真相を知る者はいないの？フォン自身が、「なぜ俺は、あの時、あのプールに飛び込み、爆発事故を起こしたのか」を覚えていないのだから、もし、そうならどうしようもないことになってしまう。しかし、そんな中でも恋人との記憶は残っているの？すると、今なおフォンを愛しているバン・リンは、フォンに対してどんな説明を？

■□■フォンの本籍はどっち？そのカギはこの女性が！■□■

『インファナル・フェア』（02年）『シネマ3』79頁、『シネマ5』333頁）以降、“潜入捜査もの”が大人気になっているが、フォンのように、復生会の中でもブリザード（暴雪）という“コードネーム”を持っている二重スパイ（？）は珍しい。そのうえ、ホントの記憶喪失状態になっているフォンは、自分の“本籍”がどちらなのかについてもホントにわかっていないようだから、そんな男を“二重スパイ”に仕立てて“潜入捜査”させるのはかなりヤバイ。今やフォンは警察上層部への信頼を完全に失っており、頼れるのは愛する恋人バン・リンだけだ。

そんな中、ついに、復生会のボス、マ・サイクエンは小型核爆弾を積み込んだ列車を突っ込ませることによって、香港国際空港の大爆破を決定。かつて日本では、高倉健が主演した『新幹線大爆破』（75年）という面白い映画があったが、製作費44億円の大半をつぎ込んだ（？）香港国際空港の大爆発はその規模をはるかに上回るもの。さあ、フォンの潜入調査によって、それを阻止することができるのだろうか？

『インファナル・フェア』以降、“潜入捜査”ものが大人気になったが、フォンは本当に潜入捜査を命じられていたの？それとも・・・？そんな複雑な物語を含めて、本作の脚本は実にうまくできている。そのことを、劇場の大スクリーンで再鑑賞することによって再確認していくことに。

2022（令和4）年2月22日記、4月21日追記